



Amazon S3 REST APIのサポート StorageGRID

NetApp
November 04, 2025

目次

Amazon S3 REST APIのサポート	1
S3 REST APIの実装の詳細	1
日付の処理	1
代表的な要求ヘッダー	1
共通の応答ヘッダー	1
要求を認証します	2
HTTP Authorization ヘッダーを使用します	2
クエリパラメータを使用します	2
サービスの処理	2
バケットの処理	3
バケットのカスタム処理	10
オブジェクトの処理	12
S3 Select を使用する	16
サーバ側の暗号化を使用します	18
オブジェクトの取得	20
HEAD Object の実行	22
POST Object restore の実行	26
PUT Object の場合	27
PUT Object - Copy の各コマンドを実行します	32
SelectObjectContent の順に選択します	36
マルチパートアップロードの処理	40
マルチパートアップロードをリストします	41
マルチパートアップロードを開始します	42
パートをアップロードします	45
パートのアップロード - コピー	46
Complete Multipart Upload の実行	47
エラー応答	48
サポートされている S3 API のエラーコード	48
StorageGRID カスタムのエラーコード	50

Amazon S3 REST APIのサポート

S3 REST APIの実装の詳細

StorageGRID システムは Simple Storage Service API (API バージョン 2006-03-01) を実装しており、ほとんどの処理をサポートしていますが、いくつかの制限事項があります。S3 REST API クライアントアプリケーションを統合するときは、実装の詳細を理解しておく必要があります。

StorageGRID システムでは、仮想ホスト形式の要求とパス形式の要求の両方がサポートされます。

日付の処理

S3 REST API の StorageGRID 実装では、有効な HTTP の日付形式のみをサポートしています。

StorageGRID システムでは、日付の値を設定できるすべてのヘッダーで、有効な HTTP の日付形式のみがサポートされます。日付の時刻の部分は、 Greenwich Mean Time (GMT ; グリニッジ標準時) の形式で指定するか、タイムゾーンのオフセットなし (+0000 を指定) の Universal Coordinated Time (UTC ; 協定世界時) の形式で指定できます。を指定する場合は `x-amz-date` 要求のヘッダー。Date要求ヘッダーで指定された値を上書きします。AWS署名バージョン4を使用している場合は、を参照してください `x-amz-date` 日付ヘッダーがサポートされていないため、署名済み要求にヘッダーが含まれている必要があります。

代表的な要求ヘッダー

StorageGRID システムは、で定義されている共通の要求ヘッダーをサポートします ["Amazon Simple Storage Service API Reference : Common Request Headers"](#) 1 つの例外を除いて。

要求ヘッダー	実装
承認	AWS 署名バージョン 2 は完全にサポートされます AWS 署名バージョン 4 は次の例外を除いてサポートされます。 <ul style="list-style-type: none">要求の本文の SHA256 の値は計算されません。ユーザが送信した値は、値の場合と同様に、検証なしで受け入れられます <code>UNSIGNED-PAYLOAD</code> は用に提供されていた <code>x-amz-content-sha256</code> ヘッダー。
<code>x-amz-security-token</code> を指定します	実装されていませんを返します <code>xNotImplemented</code> 。

共通の応答ヘッダー

StorageGRID システムでは、以下の例外を除き、[_Simple Storage Service API Reference_](#) で定義されている共通の応答ヘッダーがすべてサポートされます。

応答ヘッダー	実装
x-amz-id-2	使用されません

要求を認証します

StorageGRID システムでは、 S3 API を使用したオブジェクトへのアクセスについて、認証アクセスと匿名アクセスの両方をサポートしています。

S3 API では、 S3 API 要求の認証で署名バージョン 2 と署名バージョン 4 がサポートされます。

認証された要求は、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。

StorageGRID システムでは、HTTPという2つの認証方式がサポートされています Authorization ヘッダーを使用し、クエリパラメータを使用する。

HTTP Authorization ヘッダーを使用します

HTTP Authorization ヘッダーは、バケットポリシーで許可された匿名の要求を除き、すべてのS3 API処理で使用されます。 Authorization ヘッダーには、要求の認証に必要なすべての署名情報が含まれています。

クエリパラメータを使用します

クエリパラメータを使用すると、 URL に認証情報を追加できます。これは署名付き URL と呼ばれ、特定のリソースへの一時的なアクセスを許可する場合に使用できます。指定されたURLを持つユーザは、リソースにアクセスする際にシークレットアクセスキーを知っている必要はありません。これにより、リソースへのサードパーティの制限付きアクセスを提供できます。

サービスの処理

StorageGRID システムでは、サービスに対して次の処理をサポートしています。

操作	実装
GET Service の略 (ListBuckets)	Amazon S3 REST API のすべての動作が実装されています。予告なく変更される場合があります。
GET Storage Usage の略	GET Storage Usage 要求を使用すると、アカウントで使用しているストレージの総容量とアカウントに関連付けられているバケットごとの使用容量を確認できます。これは、パス/とカスタムクエリパラメータを使用したサービスに対する処理です (?x-ntap-sg-usage)が追加されました

操作	実装
オプション /	クライアントアプリケーションは問題を実行できます <code>OPTIONS</code> / S3 認証クレデンシャルを入力せずにストレージノード上のS3ポートに要求し、ストレージノードが使用可能かどうかを確認します。この要求は監視に使用できるほか、外部のロードバランサがストレージノードの停止を特定する目的でも使用できます。

関連情報

["GET Storage Usage の略"](#)

バケットの処理

StorageGRID システムでは、S3 テナントアカウントあたり最大 1,000 個のバケットがサポートされます。

バケット名にはAWS US Standardリージョンの制限事項が適用されますが、S3仮想ホスト形式の要求をサポートするためにDNSの命名規則にも制限する必要があります。

詳細については、次を参照してください。

- ["Amazon Web Services \(AWS \) ドキュメント : 「Bucket Restrictions and Limitations」"](#)
- ["S3エンドポイントのドメイン名を設定"](#)

GET Bucket (List Objects) 処理と GET Bucket versions 処理では、StorageGRID の整合性制御がサポートされます。

最終アクセス時間の更新が個々のバケットで有効になっているか無効になっているかを確認することができます。

次の表に、StorageGRID での S3 REST API バケット処理の実装方法を示します。これらの処理を実行するには、アカウントに必要なアクセスクレデンシャルが付与されている必要があります。

操作	実装
バケットを削除します	この処理では、バケットが削除されます。
バケットの CORS を削除します	この処理は、バケットの CORS 設定を削除します。
バケットの暗号化を削除	この処理は、バケットからデフォルトの暗号化を削除します。既存の暗号化オブジェクトは暗号化されたままですが、バケットに追加された新しいオブジェクトは暗号化されません。
バケットライフサイクルを削除	この処理は、バケットからライフサイクル設定を削除します。を参照してください "S3 ライフサイクル設定を作成する" 。
バケットポリシーを削除	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを削除します。

操作	実装
バケットレプリケーションを削除します	この処理は、バケットに関連付けられているレプリケーション設定を削除します。
バケットのタグ付けを削除します	この処理にはを使用します <code>tagging</code> サブリソース：バケットからすべてのタグを削除します。
GET Bucket (ListObjects) (ListObjectsV2)	<p>この処理は、バケット内のオブジェクトの一部またはすべて（最大 1、000）を返します。を使用してオブジェクトを取り込んだ場合でも、オブジェクトのストレージクラスには2つの値が設定されます <code>REDUCED_REDUNDANCY</code> ストレージクラスのオプション：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・`STANDARD`を指定します。このオブジェクトは、ストレージノードで構成されるストレージプールに格納されます。 ・`GLACIER`を指定します。このオブジェクトは、クラウドストレージプールで指定された外部バケットに移動されています。 <p>バケットに同じプレフィックスを持つ削除済みキーが多数含まれている場合、応答に一部のキーが含まれることがあります <code>CommonPrefixes</code> 鍵が入っていないものです</p>
GET Bucket Object versions (ListObjectVersions)	バケットに対する読み取りアクセスで、を使用した処理 <code>versions</code> サブリソースには、バケット内のオブジェクトのすべてのバージョンのメタデータが表示されます。
GET Bucket ACL の場合	この処理では、バケットの所有者にバケットに対するフルアクセスがあることを示す応答が返され、所有者の ID、表示名、および権限が表示されます。
GET Bucket CORS	この処理を実行するとが返されます <code>cors</code> バケットの設定。
GET Bucket encryption	この処理は、バケットのデフォルトの暗号化設定を返します。
GET Bucket lifecycle (GetBucketLifecycleConfiguration)	この処理は、バケットのライフサイクル設定を返します。を参照してください " S3 ライフサイクル設定を作成する "。
GET Bucket location の各 ノードで使用でき	この操作は、を使用して設定されたリージョンを返します <code>LocationConstraint</code> PUT Bucket要求の要素。バケットのリージョンがの場合 `us-east-1`を指定すると、リージョンに対して空の文字列が返されます。

操作	実装
GET Bucket notification (GetBucketNotificationConfiguration)	この処理は、バケットに関連付けられている通知設定を返します。
GET Bucket policy の場合	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを返します。
GET Bucket replication	この処理は、バケットに関連付けられているレプリケーション設定を返します。
GET Bucket tagging	この処理にはを使用します <code>tagging</code> サブリソース：バケットのすべてのタグを返す
GET Bucket versioning	この実装ではを使用します <code>versioning</code> サブリソース：バケットのバージョン管理の状態を返します。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>blank</code>: バージョン管理は有効になっていません（バケットはバージョン管理されていません） • 有効：バージョン管理が有効になっています • 中断：バージョン管理は以前有効になっていて、中断されています
オブジェクトロック設定の取得	この処理では、バケットのデフォルトの保持モードとデフォルトの保持期間（設定されている場合）が返されます。 を参照してください " S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します "。
HEAD Bucket (ヘッドバケット)	この処理は、バケットが存在し、そのバケットへのアクセス権限があるかどうかを判断します。 この処理から返される情報は次の <ul style="list-style-type: none"> • <code>x-ntap-sg-bucket-id</code>：バケットのUUID（UUID形式）。 • <code>x-ntap-sg-trace-id</code>：関連付けられた要求の一意のトレースID。

操作	実装
PUT Bucket の場合	<p>この処理は、新しいバケットを作成します。バケットを作成すると、そのバケットの所有者になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> バケット名は次のルールを満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> StorageGRID システム全体で（テナントアカウント内だけではなく）一意である必要があります。 DNS に準拠している必要があります。 3 文字以上 63 文字以下にする必要があります。 1 つ以上のラベルを連続して指定できます。隣接するラベルはピリオドで区切れます。各ラベルの先頭と末尾の文字は小文字のアルファベットか数字にする必要があります、使用できる文字は小文字のアルファベット、数字、ハイフンのみです。 テキスト形式の IP アドレスのようにはできません。 仮想ホスト形式の要求でピリオドを使用しないでください。ピリオドを使用すると、サーバワイルドカード証明書の検証で原因の問題が発生します。 デフォルトでは、バケットはに作成されます us-east-1 リージョン。ただし、を使用することはできます LocationConstraint 別のリージョンを指定するように要求本文内の要求要素。を使用する場合 <p>LocationConstraint 要素 : Grid Managerまたはグリッド管理APIを使用して定義されているリージョンの正確な名前を指定する必要があります。使用するリージョン名がわからない場合は、システム管理者にお問い合わせください。</p> 注 : StorageGRID で定義されていないリージョンを PUT Bucket 要求で使用すると、エラーが発生します。 を含めることができます x-amz-bucket-object-lock-enabled S3オブジェクトのロックを有効にしてバケットを作成する要求ヘッダー。を参照してください "S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"。 <p>バケットの作成時に S3 オブジェクトのロックを有効にする必要があります。バケットの作成後にS3オブジェクトロックを追加または無効にすることはできません。S3 オブジェクトロックにはバケットのバージョン管理が必要です。バケットの作成時に自動的に有効になります。</p>
PUT Bucket CORS	<p>この処理は、バケットの CORS 設定を指定し、クロスオリジン要求を処理できるようにします。Cross-Origin Resource Sharing (CORS) は、あるドメインのクライアント Web アプリケーションが別のドメインのリソースにアクセスできるようにするセキュリティ機能です。たとえば、という S3 バケットを使用するとします images グラフィックを保存します。の CORS 設定を指定します images バケットを使用すると、そのバケット内の画像を Web サイトに表示できます http://www.example.com。</p>

操作	実装
PUT Bucket encryption	<p>この処理は、既存のバケットのデフォルトの暗号化状態を設定します。バケットレベルの暗号化が有効な場合は、バケットに追加されたすべての新しいオブジェクトが暗号化されます。StorageGRIDでは、StorageGRIDで管理されるキーによるサーバ側の暗号化がサポートされます。サーバ側の暗号化設定ルールを指定する場合は、を設定します SSEAlgorithm パラメータの値 AES256、を使用しないでください `KMSMasterKeyID パラメータ</p> <p>バケットのデフォルトの暗号化設定は、オブジェクトのアップロード要求すでに暗号化が指定されている場合（要求にが含まれている場合）は無視されます x-amz-server-side-encryption-* 要求ヘッダー）。</p>
PUT Bucket lifecycle の場合 (PutBucketLifecycleConfiguration)	<p>この処理は、バケットの新しいライフサイクル設定を作成するか、既存のライフサイクル設定を置き換えます。StorageGRIDでは、1つのライフサイクル設定で最大1、000個のライフサイクルルールがサポートされます。各ルールには、次の XML 要素を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効期限（日数、日付） ・NoncurrentVersionExpiration（NoncurrentDays） ・フィルタ（プレフィックス、タグ） ・ステータス ・ID <p>StorageGRIDでは、次のアクションはサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AbortIncompleteMultipartUpload の略 ・ExpiredObjectDeleteMarker ・移行 <p>を参照してください "S3 ライフサイクル設定を作成する"。バケットライフサイクルのExpirationアクションとILMの配置手順の相互作用については、を参照してください "オブジェクトのライフサイクル全体にわたる ILM の動作"。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注：バケットライフサイクル設定はS3オブジェクトロックが有効なバケットで使用できますが、従来の準拠バケットではバケットライフサイクル設定がサポートされません。

操作	実装
PUT Bucket notification (PutBucketNotificationConfiguration)	<p>この処理は、要求の本文に含まれる通知設定 XML を使用してバケットの通知を設定します。実装に関する次の詳細事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> StorageGRID では、Simple Notification Service (SNS) のトピックがデスティネーションとしてサポートされます。Simple Queue Service (SQS) またはAmazon Lambdaエンドポイントはサポートされていません。 通知のデスティネーションは、StorageGRID エンドポイントの URN として指定する必要があります。エンドポイントは、Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して作成できます。 <p>通知設定が機能するためには、エンドポイントが存在している必要があります。エンドポイントが存在しない場合は、400 Bad Request エラーがコードとともに返されます InvalidArgument。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のイベントタイプに対して通知を設定することはできません。これらのイベントタイプは * サポートされていません。 <ul style="list-style-type: none"> s3:ReducedRedundancyLostObject s3:ObjectRestore:Completed StorageGRID から送信されるイベント通知は標準のJSON形式を使用しますが、次のリストに示すように、一部のキーが含まれず、他のキーには特定の値が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> * eventSource* sgws:s3 * awsRegion * 含まれません * x-amz-id-2 * 含まれません * arn * urn:sgws:s3:::bucket_name
PUT Bucket policy の場合	この処理は、バケットに関連付けられているポリシーを設定します。

操作	実装
PUT Bucket replication	<p>この操作は、を設定します "StorageGRID CloudMirrorレプリケーション" (バケット用)。要求の本文に含まれるレプリケーション設定XMLを使用します。CloudMirror レプリケーションについては、実装に関する次の詳細事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> StorageGRID では、V1 のレプリケーション設定のみがサポートされます。つまり、StorageGRID では、の使用はサポートされていません Filter ルールのエレメント。V1の規則に従ってオブジェクトバージョンを削除します。詳細については、を参照してください "レプリケーション設定に関する Amazon S3 のドキュメント"。 バケットレプリケーションは、バージョン管理されているバケットでもバージョン管理されていないバケットでも設定でき レプリケーション設定 XML の各ルールで異なるデスティネーションバケットを指定できます。1 つのソースバケットを複数のデスティネーションバケットにレプリケートできます。 デスティネーションバケットは、テナントマネージャまたはテナント管理 API で指定された StorageGRID エンドポイントの URN として指定する必要があります。を参照してください "CloudMirror レプリケーションを設定します"。 <p>レプリケーション設定が機能するためには、エンドポイントが存在している必要があります。エンドポイントが存在しない場合は、として要求が失敗します 400 Bad Request。エラーメッセージ：Unable to save the replication policy. The specified endpoint URN does not exist: URN.</p> <ul style="list-style-type: none"> を指定する必要はありません Role 設定XMLを使用します。この値は StorageGRID では使用されず、送信されても無視されます。 設定XMLでストレージクラスを省略した場合、StorageGRID ではを使用します STANDARD デフォルトのストレージクラス。 ソースバケットからオブジェクトを削除する場合、またはソースバケット自体を削除する場合、クロスリージョンレプリケーションは次のように動作します。 <ul style="list-style-type: none"> レプリケートの前にオブジェクトまたはバケットを削除した場合、オブジェクトまたはバケットはレプリケートされず、通知も送信されません。 レプリケートのあとにオブジェクトまたはバケットを削除すると、StorageGRID は、V1 のクロスリージョンレプリケーションに対する Amazon S3 の通常の削除動作に従います。

操作	実装
PUT Bucket tagging	<p>この処理にはを使用します <code>tagging</code> サブリソース：バケットの一連のタグを追加または更新できます。バケットタグを追加する場合は、次の制限事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> StorageGRID と Amazon S3 はどちらもバケットごとに最大 50 個のタグをサポートします。 バケットに関連付けられているタグには、一意のタグキーが必要です。タグキーには Unicode 文字を 128 文字まで使用できます。 タグ値には、Unicode 文字を 256 文字以内で指定します。 キーと値では大文字と小文字が区別されます。
PUT Bucket versioning の場合	<p>この実装ではを使用します <code>versioning</code> サブリソース：既存のバケットのバージョン管理の状態を設定できます。バージョン管理の状態は、次のいずれかの値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>Enabled</code>：バケット内のオブジェクトに対してバージョン管理を有効にします。バケットに追加されるすべてのオブジェクトに、一意のバージョン ID が割り当てられます。 <code>Suspended</code>：バケット内のオブジェクトに対してバージョン管理を無効にします。バケットに追加されるすべてのオブジェクトに、バージョン ID が割り当てられます <code>null</code>。
PUT Object Lock の設定を指定します	<p>この処理は、バケットのデフォルト保持モードとデフォルトの保持期間を設定または削除します。</p> <p>デフォルトの保持期間を変更した場合、既存のオブジェクトバージョンの <code>retain-until</code> はそのまま残り、新しいデフォルトの保持期間を使用して再計算されることはありません。</p> <p>を参照してください "S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します" を参照してください。</p>

関連情報

["整合性制御"](#)

["GET Bucket last access time の場合"](#)

["バケットとグループのアクセスポリシーを使用"](#)

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

バケットのカスタム処理

StorageGRID システムでは、S3 REST API に追加されたシステム固有のカスタムバケット処理をサポートしています。

次の表に、StorageGRID でサポートされるカスタムバケット処理を示します。

操作	説明	を参照してください。
GET Bucket consistency	特定のバケットに適用されている整合性レベルを返します。	"GET Bucket consistency"
PUT Bucket consistency	特定のバケットに適用される整合性レベルを設定します。	"PUT Bucket consistency"
GET Bucket last access time の場合	特定のバケットで最終アクセス時間の更新が有効になっているか無効になっているかを返します。	"GET Bucket last access time の場合"
PUT Bucket last access time のように指定します	特定のバケットの最終アクセス時間の更新を有効または無効にできます。	"PUT Bucket last access time のように指定します"
バケットのメタデータ通知設定を削除します	特定のバケットに関連付けられているメタデータ通知設定 XML を削除します。	"バケットのメタデータ通知設定を削除します"
GET Bucket metadata notification configuration	特定のバケットに関連付けられているメタデータ通知設定 XML を返します。	"GET Bucket metadata notification configuration"
PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです	バケットのメタデータ通知サービスを設定します。	"PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです"
準拠設定の PUT Bucket	廃止およびサポート終了：準拠を有効にした新しいバケットを作成できなくなりました。	"廃止：準拠設定を指定した PUT Bucket"
GET Bucket compliance で確認します	廃止されましたかサポートされています：既存の古い準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を返します。	"廃止予定：バケット準拠を取得します"
PUT Bucket compliance で確認してください	廃止されましたかサポートされています：既存の古い準拠バケットの準拠設定を変更できます。	"廃止予定：PUT Bucket compliance"

関連情報

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

オブジェクトの処理

このセクションでは、StorageGRID システムでオブジェクトの S3 REST API 処理を実装する方法について説明します。

すべてのオブジェクトの処理に次の条件が適用されます。

- StorageGRID "整合性制御" オブジェクトに対するすべての操作でサポートされます。ただし、次の操作はサポートされません。
 - GET Object ACL の場合
 - OPTIONS /
 - オブジェクトのリーガルホールドを適用します
 - PUT Object retention のことです
 - オブジェクトコンテンツを選択します
- 同じキーに書き込む 2 つのクライアントなど、競合するクライアント要求は、「latest-wins」ベースで解決されます。「latest-wins」評価のタイミングは、S3クライアントが処理を開始するタイミングではなく、StorageGRID システムが特定の要求を完了したタイミングに基づいています。
- StorageGRID バケット内のオブジェクトは、匿名ユーザまたは別のアカウントが作成したオブジェクトも含めて、すべてバケット所有者によって所有されます。
- Swiftを使用してStorageGRID システムに取り込まれたデータオブジェクトにS3を使用してアクセスすることはできません。

次の表に、StorageGRID での S3 REST API オブジェクト処理の実装方法を示します。

操作	実装
オブジェクトを削除します	<p>多要素認証（MFA）と応答ヘッダー <code>x-amz-mfa</code> はサポートされていません。</p> <p>StorageGRID は、 DELETE Object 要求を処理する際に、オブジェクトのすべてのコピーをすべての格納場所からただちに削除しようとします。成功すると、StorageGRID はただちにクライアントに応答を返します。30秒以内にすべてのコピーを削除できない場合（場所が一時的に使用できない場合など）、StorageGRID は削除対象のコピーをキューに登録し、クライアントに成功を通知します。</p> <p>バージョン管理</p> <p>特定のバージョンを削除するには、バケットの所有者を要求元にしてを使用する必要があります <code>versionId</code> サブリソース：このサブリソースを使用すると、バージョンが完全に削除されます。状況に応じて <code>versionId</code> 削除マーカー、応答ヘッダーに対応します <code>x-amz-delete-marker</code> はに設定されています <code>true</code>。</p> <ul style="list-style-type: none"> を使用せずにオブジェクトが削除された場合 <code>versionId</code> バージョンが有効になっているバケットのサブリソースが表示されると、削除マーカーが生成されます。。 <code>versionId</code> 削除マーカーの場合は、を使用して戻ります <code>x-amz-version-id</code> 応答ヘッダー、および <code>x-amz-delete-marker</code> 応答ヘッダーがに設定されて返されます <code>true</code>。 を使用せずにオブジェクトが削除された場合 <code>versionId</code> バージョンが一時停止中のバケットについて、既存の「null」バージョンまたは「null」削除マーカーが完全に削除され、新しい「null」削除マーカーが生成されます。。 <code>x-amz-delete-marker</code> 応答ヘッダーがに設定されて返されます <code>true</code>。 注 *：特定の場合、1つのオブジェクトに複数の削除マーカーが存在することがあります。 <p>を参照してください "S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します" ガバナンスマードでオブジェクトバージョンを削除する方法については、を参照してください。</p>
複数のオブジェクトを削除します (DeleteObjects)	<p>多要素認証（MFA）と応答ヘッダー <code>x-amz-mfa</code> はサポートされていません。</p> <p>同じ要求メッセージで複数のオブジェクトを削除できます。</p> <p>を参照してください "S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します" ガバナンスマードでオブジェクトバージョンを削除する方法については、を参照してください。</p>

操作	実装
オブジェクトのタグ付けを削除します	<p>を使用します <code>tagging</code> サブリソース：オブジェクトからすべてのタグを削除します。</p> <p>バージョン管理</p> <p>状況に応じて <code>versionId</code> クエリパラメータが要求で指定されていない場合、バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの最新バージョンからすべてのタグが削除されます。オブジェクトの現在のバージョンが削除マーカーの場合は、"MethodNotAllowed"ステータスがとともに返されます <code>x-amz-delete-marker</code> 応答ヘッダーをに設定しました <code>true</code>。</p>
オブジェクトの取得	"オブジェクトの取得"
GET Object ACL の場合	アカウントに必要なアクセスクレデンシャルがある場合、オブジェクトの所有者にオブジェクトに対するフルアクセスがあることを示す応答が返され、所有者の ID、表示名、および権限が表示されます。
オブジェクトのリーガルホールドを取得します	"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"
GET Object retention のことです	"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"
GET Object tagging	<p>を使用します <code>tagging</code> サブリソース：オブジェクトのすべてのタグを返すために使用します。</p> <p>バージョン管理</p> <p>状況に応じて <code>versionId</code> クエリパラメータが要求で指定されていない場合、バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの最新バージョンからすべてのタグが返されます。オブジェクトの現在のバージョンが削除マーカーの場合は、"MethodNotAllowed"ステータスがとともに返されます <code>x-amz-delete-marker</code> 応答ヘッダーをに設定しました <code>true</code>。</p>
HEAD Object の実行	"HEAD Object の実行"
POST Object restore の実行	"POST Object restore の実行"
PUT Object の場合	"PUT Object の場合"
PUT Object - Copy の各コマンドを実行します	"PUT Object - Copy の各コマンドを実行します"
オブジェクトのリーガルホールドを適用します	"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"

操作	実装
PUT Object retention のことです	"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"
PUT Object tagging	<p>を使用します <code>tagging</code> サブリソース：既存のオブジェクトに一連のタグを追加します。</p> <p>オブジェクトタグの制限</p> <p>タグは、新しいオブジェクトをアップロードするときに追加することも、既存のオブジェクトに追加することもできます。StorageGRID と Amazon S3 はどちらも、オブジェクトごとに最大 10 個のタグをサポートします。オブジェクトに関連付けられたタグには、一意のタグキーが必要です。タグキーには Unicode 文字を 128 文字まで、タグ値には Unicode 文字を 256 文字まで使用できます。キーと値では大文字と小文字が区別されます。</p> <p>タグの更新と取り込み動作</p> <p>PUT Object tagging を使用してオブジェクトのタグを更新した場合、StorageGRID はオブジェクトを再取り込みしません。これは、一致する ILM ルールで指定されている取り込み動作が使用されないことを意味します。更新によって発生したオブジェクト配置の変更是、通常のバックグラウンド ILM プロセスで ILM が再評価されるときに実施されます。</p> <p>つまり、ILM ルールの取り込み動作に Strict オプションが使用されている場合、必要なオブジェクト配置を実行できない場合（新たに必要な場所が使用できない場合など）は処理されません。更新されたオブジェクトは、必要な配置を実行可能になるまで現在の配置が維持されます。</p> <p>競合の解決</p> <p>同一キーに書き込む2つのクライアントなど「競合するクライアント要求は'最新のWINS形式で解決されます「latest-wins」評価のタイミングは、S3クライアントが処理を開始するタイミングではなく、StorageGRID システムが特定の要求を完了したタイミングに基づいています。</p> <p>バージョン管理</p> <p>状況に応じて <code>versionId</code> クエリパラメータが要求で指定されていません。処理は、バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの最新バージョンにタグを追加します。オブジェクトの現在のバージョンが削除マーカーの場合は、"MethodNotAllowed"ステータスがとともに返されます <code>x-amz-delete-marker</code> 応答ヘッダーをに設定しました <code>true</code>。</p>
SelectObjectContent の順に選択します	"SelectObjectContent の順に選択します"

関連情報

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

S3 Select を使用する

StorageGRID は、で次のAmazon S3 Select句、データ型、および演算子をサポートしています "SelectObjectContent コマンド"。



リストされていない項目はサポートされていません。

構文については、を参照してください "SelectObjectContent の順に選択します"。S3 Select の詳細については、を参照してください "S3 Select に関する AWS のドキュメント"。

問題 SelectObjectContent クエリを実行できるのは、S3 Select が有効になっているテナントアカウントのみです。を参照してください "S3 Select を使用する際の考慮事項と要件"。

句

- リストを選択します
- FROM 句
- WHERE 句
- Limit 句

データ型

- ブール値
- 整数
- 文字列
- 浮動小数点
- 10 進数、数値
- タイムスタンプ

演算子

論理演算子

- および
- ありません
- または

比較演算子

- <
- >
- \Leftarrow
- \geq
- =

- =
- <>
- !=
- 間 (Between)
- インチ

パターンマッチング演算子

- いいね
- _
- %

単一の演算子

- は NULL です
- は NULL ではありません

数学演算子

- [+]
- -
- *
- /
- %

StorageGRID はAmazon S3 Selectオペレータの優先順位に従います。

集合関数

- 平均 ()
- カウント (*)
- 最大 ()
- 最小 ()
- 合計 ()

条件付き関数

- ケース
- 集合体
- NULLIF

変換関数

- CAST (サポートされているデータタイプ用)

日付関数

- date_add
- DATE_DIFF
- 抽出 (Extract)
- 文字列まで (_STRING)
- 終了タイムスタンプ
- UTCTIME

文字列関数

- char_length、character_length
- 低い
- サブストリング
- トリム (Trim)
- 上限

サーバ側の暗号化を使用します

サーバ側の暗号化を使用して、保存中のオブジェクトデータを保護できます。StorageGRID は、オブジェクトを書き込む際にデータを暗号化し、ユーザがオブジェクトにアクセスする際にデータを復号化します。

サーバ側の暗号化を使用する場合は、暗号化キーの管理方法に基づいて、次の 2 つのオプションを同時に選択できます。

- * SSE (StorageGRID で管理されるキーによるサーバ側の暗号化) * : オブジェクトを格納する S3 要求を問題で暗号化すると、StorageGRID は一意のキーでオブジェクトを暗号化します。オブジェクトを読み出す S3 要求を問題で実行すると、StorageGRID は格納されているキーを使用してオブジェクトを復号化します。
- * SSE-C (ユーザ指定のキーによるサーバ側の暗号化) * : オブジェクトを格納する S3 要求を問題で処理するときに、独自の暗号化キーを指定します。オブジェクトを読み出すときは、同じ暗号化キーを要求に指定します。2 つの暗号化キーが一致すると、オブジェクトが復号化されてオブジェクトデータが返されます。

オブジェクトの暗号化処理と復号化処理はすべて StorageGRID で管理されますが、指定する暗号化キーはユーザが管理する必要があります。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。



SSE または SSE-C で暗号化されたオブジェクトは、バケットレベルまたはグリッドレベルの暗号化設定が無視されます。

SSE を使用します

StorageGRID で管理される一意のキーでオブジェクトを暗号化する場合は、次の要求ヘッダーを使用します。

x-amz-server-side-encryption

SSE 要求ヘッダーは、次のオブジェクト処理でサポートされます。

- "PUT Object の場合"
- "PUT Object - Copy の各コマンドを実行します"
- "マルチパートアップロードを開始します"

SSE-C を使用します

ユーザが管理する一意のキーでオブジェクトを暗号化する場合は、次の 3 つの要求ヘッダーを使用します。

要求ヘッダー	説明
x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm	暗号化アルゴリズムを指定します。ヘッダー値はである必要があります AES256。
x-amz-server-side-encryption-customer-key	オブジェクトの暗号化と復号化に使用する暗号化キーを指定します。キーの値は、Base64 でエンコードされた 256 ビットである必要があります。
x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5	RFC 1321 に従って暗号化キーの MD5 ダイジェストを指定します。これは、暗号化キーがエラーなしで送信されたことを確認するために使用されます。MD5 ダイジェストの値は、Base64 でエンコードされた 128 ビットである必要があります。

SSE-C 要求ヘッダーは、次のオブジェクト処理でサポートされます。

- "オブジェクトの取得"
- "HEAD Object の実行"
- "PUT Object の場合"
- "PUT Object - Copy の各コマンドを実行します"
- "マルチパートアップロードを開始します"
- "パートをアップロードします"
- "パートのアップロード - コピー"

ユーザ指定のキーによるサーバ側の暗号化（SSE-C）を使用する場合の考慮事項

SSE-C を使用する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- HTTPS を使用する必要があります。



SSE-C を使用すると、http 経由の要求が StorageGRID すべて拒否されますセキュリティ上の理由から、誤って http を使用して送信したキーは漏洩する可能性があります。キーを破棄し、必要に応じてローテーションします。

- 応答内の ETag は、オブジェクトデータの MD5 ではありません。
- 暗号化キーとオブジェクトの対応関係を管理する必要があります。StorageGRID では暗号化キーは格納されません。各オブジェクトに対して指定した暗号化キーを管理する責任はユーザにあります。
- バケットのバージョン管理が有効になっている場合は、オブジェクトのバージョンごとに固有の暗号化キーが必要です。各オブジェクトバージョンで使用される暗号化キーを管理する責任はユーザにあります。
- 暗号化キーはクライアント側で管理するため、キーローテーションなどの追加の防護策もクライアント側で管理する必要があります。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。

- バケットにクロスグリッドレプリケーションまたはCloudMirrorレプリケーションが設定されている場合は、SSE-Cオブジェクトを取り込むことはできません。取り込み処理は失敗します。

関連情報

["Amazon S3 開発者ガイド：「お客様が用意した暗号化キーによるサーバ側の暗号化（SSE-C）を使用したデータの保護」"](#)

オブジェクトの取得

S3 GET Object 要求を使用して、S3 バケットからオブジェクトを読み出すことができます。

オブジェクトとマルチパートオブジェクトを取得する

を使用できます partNumber マルチパートまたはセグメント化されたオブジェクトの特定の部分を読み出す要求パラメータ。。 x-amz-mp-parts-count response要素は、オブジェクトに含まれるパートの数を示します。

設定できます partNumber セグメント化されたオブジェクト/マルチパートオブジェクトとセグメント化されていないオブジェクト/マルチパート以外のオブジェクトの場合は1。ただし、x-amz-mp-parts-count 応答要素は、セグメント化されたオブジェクトまたはマルチパートオブジェクトの場合にのみ返されます。

ユーザメタデータ内の UTF-8 文字

StorageGRID は、ユーザ定義メタデータ内のエスケープされた UTF-8 文字を解析も解釈もしません。ユーザ定義メタデータにエスケープされたUTF-8文字が含まれているオブジェクトに対するGET要求では、が返されません x-amz-missing-meta キーの名前または値に印刷できない文字が含まれている場合は、ヘッダーを指定します。

サポートされない要求ヘッダーです

次の要求ヘッダーはサポートされていません XNotImplemented :

- x-amz-website-redirect-location

バージョン管理

の場合 `versionId` サブリソースが指定されていません。バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの最新バージョンが取得されます。オブジェクトの現在のバージョンが削除マーカーの場合は、「見つからない」ステータスがとともに返されます `x-amz-delete-marker` 応答ヘッダーをに設定しました `true`。

ユーザ指定の暗号化キーによるサーバ側の暗号化（**SSE-C**）の要求ヘッダー

指定した一意のキーでオブジェクトが暗号化されている場合は、3つのヘッダーをすべて使用します。

- `x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
- `x-amz-server-side-encryption-customer-key`: オブジェクトの暗号化キーを指定します
- `x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5`: オブジェクトの暗号化キーのMD5ダイジェストを指定します。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。ユーザ指定のキーを使用してオブジェクトデータを保護する前に、の考慮事項を確認してください ["サーバ側の暗号化を使用します"](#)。

クラウドストレージプールオブジェクトに対する **GET Object** の動作

オブジェクトがに格納されている場合 ["クラウドストレージプール"](#) の場合、**GET Object**要求の動作はオブジェクトの状態によって異なります。を参照してください ["HEAD Object の実行"](#) 詳細：



オブジェクトがクラウドストレージプールに格納され、かつそのオブジェクトのコピーがグリッドに1つ以上存在する場合、**GET Object** 要求はクラウドストレージプールからデータを読み出す前に、グリッドからデータを読み出そうとします。

オブジェクトの状態	GET Object の動作
StorageGRID に取り込まれているがまだ ILM によって評価されていないオブジェクト、または従来のストレージプールに格納されているオブジェクト、またはイレイジヤーコーディングを使用しているオブジェクト	200 OK オブジェクトのコピーが読み出されます。
クラウドストレージプール内にあるが、まだ読み出し不可能な状態に移行していない	200 OK オブジェクトのコピーが読み出されます。
オブジェクトを読み出し不可能な状態に移行した	403 Forbidden、 <code>InvalidObjectState</code> を使用します "POST Object restore の実行" 読み出し可能な状態へのオブジェクトのリストア要求。

オブジェクトの状態	GET Object の動作
読み出し不可能な状態からリストア中である	403 Forbidden、 InvalidObjectState POST Object restore 要求が完了するまで待ちます。
クラウドストレージプールへのリストアが完了している	200 OK オブジェクトのコピーが読み出されます。

クラウドストレージプール内のマルチパートオブジェクトまたはセグメント化されたオブジェクト

マルチパートオブジェクトをアップロードした場合や StorageGRID が大きなオブジェクトをセグメントに分割した場合、 StorageGRID はオブジェクトのパートまたはセグメントのサブセットをサンプリングすることでクラウドストレージプール内のオブジェクトが使用可能かどうかを判断します。GET Object要求が誤って返されることがあります 200 OK オブジェクトの一部のパートがすでに読み出し不可能な状態に移行されている場合や、オブジェクトの一部のパートがまだリストアされていない場合。

このような場合は、次のように

- GET Object 要求がデータの一部を返し、転送の途中で停止することがあります。
- 後続のGET Object要求が返されることがあります 403 Forbidden。

GET Objectとクロスグリッドレプリケーション

使用するポート "グリッドフェデレーション" および "グリッド間レプリケーション" バケットで有効になっている場合、S3クライアントはGET Object要求を発行してオブジェクトのレプリケーションステータスを確認できます。応答にはStorageGRID固有の情報が含まれます x-ntap-sg-cgr-replication-status 応答ヘッダー。次のいずれかの値が設定されます。

グリッド (Grid)	レプリケーションのステータス
ソース	<ul style="list-style-type: none"> • 成功：レプリケーションは成功しました。 • * pending*：オブジェクトはまだレプリケートされていません。 • failure：レプリケーションが永続的なエラーで失敗しました。ユーザーはエラーを解決する必要があります。
宛先	replica:オブジェクトはソースグリッドからレプリケートされました。



StorageGRID ではがサポートされません x-amz-replication-status ヘッダー。

関連情報

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

HEAD Object の実行

S3 HEAD Object 要求を使用すると、オブジェクト自体を返さずにオブジェクトからメ

タデータを読み出すことができます。オブジェクトがクラウドストレージプールに格納されている場合は、HEAD Objectを使用してオブジェクトの移行状態を特定できます。

HEAD オブジェクトおよびマルチパートオブジェクト

を使用できます partNumber マルチパートまたはセグメント化されたオブジェクトの特定の部分のメタデータを読み出す要求パラメータ。。 x-amz-mp-parts-count response要素は、オブジェクトに含まれるパートの数を示します。

設定できます partNumber セグメント化されたオブジェクト/マルチパートオブジェクトとセグメント化されていないオブジェクト/マルチパート以外のオブジェクトの場合は1。ただし、 x-amz-mp-parts-count 応答要素は、セグメント化されたオブジェクトまたはマルチパートオブジェクトの場合にのみ返されます。

ユーザメタデータ内の UTF-8 文字

StorageGRIDは、ユーザ定義メタデータ内のエスケープされたUTF-8文字を解析も解釈もしません。ユーザ定義メタデータにエスケープされたUTF-8文字が含まれているオブジェクトに対するHEAD要求では、が返されません x-amz-missing-meta キーの名前または値に印刷できない文字が含まれている場合は、ヘッダーを指定します。

サポートされない要求ヘッダーです

次の要求ヘッダーはサポートされていません xNotImplemented :

- x-amz-website-redirect-location

バージョン管理

の場合 versionId サブリソースが指定されていません。バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの最新バージョンが取得されます。オブジェクトの現在のバージョンが削除マーカーの場合は、「見つからない」ステータスがとともに返されます x-amz-delete-marker 応答ヘッダーをに設定しました true。

ユーザ指定の暗号化キーによるサーバ側の暗号化（SSE-C）の要求ヘッダー

指定した一意のキーでオブジェクトが暗号化されている場合は、次の3つのヘッダーをすべて使用します。

- x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm:指定します AES256。
- x-amz-server-side-encryption-customer-key:オブジェクトの暗号化キーを指定します
- x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5:オブジェクトの暗号化キーのMD5ダイジェストを指定します。

 指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。ユーザ指定のキーを使用してオブジェクトデータを保護する前に、の考慮事項を確認してください "サーバ側の暗号化を使用します"。

クラウドストレージプールオブジェクトに対するHEAD Object応答

オブジェクトがに格納されている場合 "クラウドストレージプール"を指定すると、次の応答ヘッダーが返されます。

- `x-amz-storage-class: GLACIER`

- `x-amz-restore`

応答ヘッダーは、オブジェクトがクラウドストレージプールに移動され、必要に応じて読み出し不可能な状態に移行されてリストアされるときの状態に関する情報を提供します。

オブジェクトの状態	HEAD Objectへの応答
StorageGRID に取り込まれているがまだ ILM によって評価されていないオブジェクト、または従来のストレージプールに格納されているオブジェクト、またはイレイジャーコーディングを使用しているオブジェクト	200 OK (特別な応答ヘッダーは返されません)。
クラウドストレージプール内にあるが、まだ読み出し不可能な状態に移行していない	200 OK <code>x-amz-storage-class: GLACIER</code> <code>x-amz-restore: ongoing-request="false", expiry-date="Sat, 23 July 20 2030 00:00:00 GMT"</code> オブジェクトが読み出し不可能な状態に移行されるまでの間、の値 <code>expiry-date</code> は、将来の特定の日時に設定されます。移行の正確な時間は、StorageGRID システムでは制御されません。
オブジェクトが読み出し不可能な状態に移行したが、少なくとも 1 つのコピーがグリッドに存在する	200 OK <code>x-amz-storage-class: GLACIER</code> <code>x-amz-restore: ongoing-request="false", expiry-date="Sat, 23 July 20 2030 00:00:00 GMT"</code> の値 <code>expiry-date</code> は、将来の特定の日時に設定されます。 注：グリッド上のコピーを使用できない場合（ストレージノードが停止している場合など）は、問題を実行する必要があります "POST Object restore の実行" オブジェクトを読み出す前にクラウドストレージプールからコピーをリストアする要求。
読み出し不可能な状態に移行しており、グリッドにコピーが存在しない	200 OK <code>x-amz-storage-class: GLACIER</code>

オブジェクトの状態	HEAD Objectへの応答
読み出し不可能な状態からリストア中である	200 OK x-amz-storage-class: GLACIER x-amz-restore: ongoing-request="true"
クラウドストレージプールへのリストアが完了している	200 OK x-amz-storage-class: GLACIER x-amz-restore: ongoing-request="false", expiry-date="Sat, 23 July 20 2018 00:00:00 GMT" 。expiry-date クラウドストレージプール内のオブジェクトが読み出し不可能な状態に戻るタイミングを示します。

クラウドストレージプール内のマルチパートオブジェクトまたはセグメント化されたオブジェクト

マルチパートオブジェクトをアップロードした場合や StorageGRID が大きなオブジェクトをセグメントに分割した場合、StorageGRID はオブジェクトのパートまたはセグメントのサブセットをサンプリングすることでクラウドストレージプール内のオブジェクトが使用可能かどうかを判断します。HEAD Object要求が誤って返されることがあります x-amz-restore: ongoing-request="false" オブジェクトの一部のパートがすでに読み出し不可能な状態に移行されている場合や、オブジェクトの一部のパートがまだリストアされていない場合。

HEAD Objectとクロスグリッドレプリケーション

使用するポート "グリッドフェデレーション" および "グリッド間レプリケーション" バケットで有効になっている場合、S3クライアントはHEAD Object要求を発行してオブジェクトのレプリケーションステータスを確認できます。応答にはStorageGRID固有の情報が含まれます x-ntap-sg-cgr-replication-status 応答ヘッダー。次のいずれかの値が設定されます。

グリッド (Grid)	レプリケーションのステータス
ソース	<ul style="list-style-type: none"> 成功：レプリケーションは成功しました。 * pending*：オブジェクトはまだレプリケートされていません。 failure：レプリケーションが永続的なエラーで失敗しました。ユーザーはエラーを解決する必要があります。
宛先	replica ：オブジェクトはソースグリッドからレプリケートされました。



StorageGRID ではがサポートされません x-amz-replication-status ヘッダー。

関連情報

POST Object restore の実行

S3 POST Object restore 要求を使用して、クラウドストレージプールに格納されているオブジェクトをリストアできます。

サポートされている要求タイプ

StorageGRID では、オブジェクトのリストアに POST Object restore 要求のみがサポートされます。ではサポートされません SELECT リストアのタイプ。戻り要求を選択してください XNotImplemented。

バージョン管理

必要に応じて、と指定します `versionId` バージョン管理されたバケット内のオブジェクトの特定のバージョンをリストアする。指定しない場合 `versionId` オブジェクトの最新バージョンがリストアされます

クラウドストレージプールオブジェクトでの **POST Object restore** の動作

オブジェクトがクラウドストレージプールに格納されている場合（情報ライフサイクル管理を使用してオブジェクトを管理する手順を参照）、POST Object restore 要求はオブジェクトの状態に基づいて次のように動作します。詳細については、「head Object」を参照してください。



オブジェクトがクラウドストレージプールに格納され、かつそのオブジェクトのコピーがグリッドに 1 つ以上存在する場合は、POST Object restore 要求を実行してオブジェクトをリストアする必要はありません。GET Object 要求を使用してローカルコピーを直接読み出すことができます。

オブジェクトの状態	POST Object restore の動作
StorageGRID に取り込まれているがまだ ILM によって評価されていない、またはオブジェクトがクラウドストレージプールにない	403 Forbidden、 InvalidObjectState
クラウドストレージプール内にあるが、まだ読み出し不可能な状態に移行していない	200 OK 変更は行われません。 注：オブジェクトが読み出し不可能な状態に移行されるまでは変更できません <code>expiry-date</code> 。

オブジェクトの状態	POST Object restore の動作
オブジェクトを読み出し不可能な状態に移行した	<p>202 Accepted 要求の本文で指定されている日数、オブジェクトの読み出し可能なコピーをクラウドストレージプールにリストアします。この期間が終了すると、オブジェクトは読み出し不可能な状態に戻ります。</p> <p>必要に応じて、を使用します Tier リストアジョブの完了までにかかる時間を確認するための要求要素 (Expedited、Standard、または `Bulk)。指定しない場合 Tier、Standard 階層を使用しています。</p> <p>重要：オブジェクトがS3 Glacier Deep Archiveに移行された場合、またはクラウドストレージプールがAzure BLOBストレージを使用している場合は、を使用してリストアできません Expedited 階層：次のエラーが返されます 403 Forbidden、InvalidTier: Retrieval option is not supported by this storage class。</p>
読み出し不可能な状態からリストア中である	409 Conflict、RestoreAlreadyInProgress
クラウドストレージプールへのリストアが完了している	<p>200 OK</p> <p>*注：*オブジェクトが読み出し可能な状態にリストアされている場合は、オブジェクトを変更できます expiry-date 用の新しい値を指定してPOST Object restore要求を再発行する Days。要求が実行された日時に基づいてリストア日が更新されます。</p>

関連情報

["ILM を使用してオブジェクトを管理する"](#)

["HEAD Object の実行"](#)

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

PUT Object の場合

S3 PUT Object 要求を使用すると、オブジェクトをバケットに追加できます。

競合を解決します

同じキーに書き込む 2 つのクライアントなど、競合するクライアント要求は、「latest-wins」ベースで解決されます。「latest-wins」評価は、S3 クライアントが処理を開始するタイミングではなく、StorageGRID システムが特定の要求を完了したタイミングで行われます。

オブジェクトのサイズ

単一 PUT Object 処理の maximum_recommended_size は 5GiB (5、368、709、120 バイト) です。5GB より大きいオブジェクトがある場合は、マルチパートアップロードを使用してください。

単一のPUT Object処理のmaximum_supported_sizeは5TiB (5、497、558、138、880バイト) です。ただし、

5GiB を超えるオブジェクトをアップロードしようとすると、 * S3 PUT Object size too large * アラートがトリガーされます。

ユーザメタデータのサイズ

Amazon S3 では、各 PUT 要求ヘッダー内のユーザ定義メタデータのサイズが 2KB に制限されます。StorageGRID では、ユーザメタデータが 24KiB に制限されます。ユーザ定義のメタデータのサイズは、各キーと値の UTF-8 エンコードでのバイト数の合計で測定されます。

ユーザメタデータ内の **UTF-8** 文字

要求のユーザ定義メタデータのキー名または値に（エスケープされていない）UTF-8 文字が含まれている場合、StorageGRID の動作は定義されていません。

ユーザ定義メタデータのキー名または値に含まれているエスケープされた UTF-8 文字は、StorageGRID で解析も解釈もされません。エスケープされた UTF-8 文字は ASCII 文字として扱われます。

- ユーザ定義メタデータにエスケープされた UTF-8 文字が含まれている場合、PUT、PUT Object-Copy、GET、HEAD の各要求は正常に実行されます。
- StorageGRID からが返さない `x-amz-missing-meta` キーの名前または値の解釈後の値に印刷不能文字が含まれている場合は、ヘッダー。

オブジェクトタグの制限

タグは、新しいオブジェクトをアップロードするときに追加することも、既存のオブジェクトに追加することもできます。StorageGRID と Amazon S3 はどちらも、オブジェクトごとに最大 10 個のタグをサポートします。オブジェクトに関連付けられたタグには、一意のタグキーが必要です。タグキーには Unicode 文字を 128 文字まで、タグ値には Unicode 文字を 256 文字まで使用できます。キーと値では大文字と小文字が区別されます。

オブジェクトの所有権

StorageGRID では、非所有者アカウントまたは匿名ユーザによって作成されたオブジェクトを含むすべてのオブジェクトが、バケット所有者アカウントによって所有されます。

サポートされる要求ヘッダー

次の要求ヘッダーがサポートされています。

- Cache-Control
- Content-Disposition
- Content-Encoding

を指定する場合 `aws-chunked` の場合 Content-Encoding StorageGRID では、次の項目は検証されません。

- StorageGRID ではが検証されません `chunk-signature` チャンクデータに対して。
- StorageGRID は、ユーザが指定した値を検証しません `x-amz-decoded-content-length` をクリックします。
- Content-Language

- Content-Length
- Content-MD5
- Content-Type
- Expires
- Transfer-Encoding

チャンク転送エンコードは、の場合にサポートされます aws-chunked ペイロード署名も使用されます。

- `x-amz-meta-`をクリックし、続けてユーザ定義のメタデータを含む名前と値のペアを作成します。

ユーザ定義メタデータの名前と値のペアを指定する場合、一般的な形式は次のとおりです。

```
x-amz-meta-name: value
```

ILMルールの参照時間に*[ユーザ定義の作成時間]*オプションを使用する場合は、を使用する必要があります creation-time を、オブジェクトの作成時に記録されたメタデータの名前として指定します。例：

```
x-amz-meta-creation-time: 1443399726
```

の値 creation-time は、1970年1月1日からの秒数として評価されます。



ILMルールでは、参照時間に「ユーザ定義の作成時間」*を使用し、取り込み動作に「Balanced」または「Strict」オプションを使用することはできません。ILM ルールの作成時にエラーが返されます。

- x-amz-tagging
- S3 Object Lock 要求のヘッダー
 - x-amz-object-lock-mode
 - x-amz-object-lock-retain-until-date
 - x-amz-object-lock-legal-hold
- SSE 要求ヘッダー：
 - x-amz-server-side-encryption
 - x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5
 - x-amz-server-side-encryption-customer-key
 - x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm

を参照してください [\[サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー\]](#)

サポートされない要求ヘッダーです

次の要求ヘッダーはサポートされていません。

- `x-amz-acl` 要求ヘッダーはサポートされていません。
- `x-amz-website-redirect-location` 要求ヘッダーはサポートされておらず、返されます `XNotImplemented`。

ストレージクラスのオプション

• `x-amz-storage-class` 要求ヘッダーがサポートされています。に送信された値 `x-amz-storage-class StorageGRID` が取り込み中にオブジェクトデータを保護する方法に影響し、StorageGRID システム (ILMで決定) に格納されるオブジェクトの永続的コピーの数には影響しません。

取り込まれたオブジェクトに一致するILMルールの取り込み動作がStrictオプションに指定されている場合、はを使用します `x-amz-storage-class` ヘッダーに影響はありません。

には次の値を使用できます `x-amz-storage-class` :

- STANDARD (デフォルト)
 - * Dual commit * : ILM ルールの取り込み動作が Dual commit オプションに指定されている場合は、オブジェクトの取り込み直後にオブジェクトの 2 つ目のコピーが作成されて別のストレージノードに配置されます (デュアルコミット)。ILMが評価されると、StorageGRID はこれらの初期中間コピーがルールの配置手順を満たしているかどうかを判断します。作成されていない場合は、新しいオブジェクトコピーを別の場所に作成し、最初の中間コピーを削除しなければならぬことがあります。
 - * Balanced * : ILMルールでBalancedオプションが指定されていて、ルールで指定されたすべてのコピーをStorageGRID がすぐに作成できない場合、StorageGRID は2つの中間コピーを別々のストレージノードに作成します。

StorageGRID がILMルールに指定されたすべてのオブジェクトコピーをただちに作成できる場合 (同期配置) は、を参照してください `x-amz-storage-class` ヘッダーに影響はありません。

- REDUCED_REDUNDANCY

- * Dual commit * : ILM ルールの取り込み動作が Dual commit オプションに指定されている場合は、オブジェクトの取り込み時に StorageGRID が中間コピーを 1 つ作成します (シングルコミット)。
- * Balanced * : ILMルールでBalancedオプションが指定されている場合、StorageGRID は、ルールで指定されたすべてのコピーをただちに作成できない場合にのみ中間コピーを1つ作成します。StorageGRID で同期配置を実行できる場合、このヘッダーは効果がありません。REDUCED_REDUNDANCY オプションは、オブジェクトに一致するILMルールで単一のレプリケートコピーが作成される場合に最適です。この場合は、を使用します REDUCED_REDUNDANCY 取り込み処理のたびに追加のオブジェクトコピーを不要に作成および削除する必要がなくなります。

を使用する REDUCED_REDUNDANCY それ以外の場合は、このオプションは推奨されません。

REDUCED_REDUNDANCY 取り込み中にオブジェクトデータが失われるリスクが高まります。たとえば、ILM 評価の前にコピーが 1 つだけ格納されていたストレージノードに障害が発生すると、データが失われる可能性があります。



レプリケートコピーを一定期間に 1 つだけ作成すると、データが永続的に失われるリスクがあります。オブジェクトのレプリケートコピーが 1 つしかない場合、ストレージノードに障害が発生したり、重大なエラーが発生すると、そのオブジェクトは失われます。また、アップグレードなどのメンテナンス作業中は、オブジェクトへのアクセスが一時的に失われます。

を指定します `REDUCED_REDUNDANCY` オブジェクトの初回取り込み時に作成されるコピー数のみに影響します。オブジェクトがアクティブな ILM ポリシーで評価される際に作成されるオブジェクトのコピー数には影響せず、StorageGRID システムでデータが格納されるときの冗長性レベルが低下することもありません。



S3 オブジェクトロックを有効にしてオブジェクトをバケットに取り込む場合は、を使用します `REDUCED_REDUNDANCY` オプションは無視されます。古い準拠バケットにオブジェクトを取り込む場合は、を参照してください `REDUCED_REDUNDANCY` オプションを指定するとエラーが返されます。StorageGRID では、常にデュアルコミットの取り込みが実行され、コンプライアンス要件が満たされます。

サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー

オブジェクトをサーバ側の暗号化で暗号化するには、次の要求ヘッダーを使用します。SSE オプションと SSE-C オプションを同時に指定することはできません。

- * SSE * : StorageGRID で管理される一意のキーでオブジェクトを暗号化するには、次のヘッダーを使用します。
 - `x-amz-server-side-encryption`
- * SSE-C * : ユーザが指定および管理する一意のキーでオブジェクトを暗号化する場合は、次の 3 つのヘッダーをすべて使用します。
 - `x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
 - `x-amz-server-side-encryption-customer-key`: 新しいオブジェクトの暗号化キーを指定します。
 - `x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5`: 新しいオブジェクトの暗号化キーの MD5 ダイジェストを指定します。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。ユーザ指定のキーを使用してオブジェクトデータを保護する前に、の考慮事項を確認してください ["サーバ側の暗号化を使用する"](#)。



SSE または SSE-C で暗号化されたオブジェクトは、バケットレベルまたはグリッドレベルの暗号化設定が無視されます。

バージョン管理

バケットでバージョン管理が有効になっている場合は、一意です `versionId` は、格納されているオブジェクトのバージョンに対して自動的に生成されます。これ `versionId` は、を使用して応答としても返されます `x-amz-version-id` 応答ヘッダー。

バージョン管理が一時停止中の場合は、オブジェクトバージョンは null で格納されます `versionId` また、null バージョンがすでに存在する場合は上書きされます。

Authorizationヘッダーのシグニチャ計算

を使用する場合 Authorization 要求を認証するためのヘッダー。StorageGRID は AWS と次の点で異なります。

- StorageGRID は必要ありません host に含めるヘッダー CanonicalHeaders。
- StorageGRID は必要ありません Content-Type に含まれています CanonicalHeaders。
- StorageGRID は必要ありません x-amz-* に含めるヘッダー CanonicalHeaders。



一般的なベストプラクティスとして、には常にこれらのヘッダーを含めてください CanonicalHeaders これらのヘッダーが検証されるようにするためにですが、これらのヘッダーを除外しても、StorageGRID はエラーを返しません。

詳細については、を参照してください ["Authorizationヘッダーのシグニチャ計算：單一チャンクでのペイロードの転送 \(AWS Signature Version 4\)"](#)。

関連情報

["ILM を使用してオブジェクトを管理する"](#)

["バケットの処理"](#)

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

["クライアント接続の設定方法"](#)

PUT Object - Copy の各コマンドを実行します

S3 PUT Object - Copy 要求を使用すると、すでに S3 に格納されているオブジェクトのコピーを作成できます。PUT Object - Copy 処理は、GET を実行してから PUT を実行する処理と同じです。

競合を解決します

同じキーに書き込む 2 つのクライアントなど、競合するクライアント要求は、「latest-wins」ベースで解決されます。「latest-wins」評価は、S3 クライアントが処理を開始するタイミングではなく、StorageGRID システムが特定の要求を完了したタイミングで行われます。

オブジェクトのサイズ

単一 PUT Object 処理の maximum_recommended_size は 5GiB (5、368、709、120 バイト) です。5GB より大きいオブジェクトがある場合は、マルチパートアップロードを使用してください。

単一のPUT Object処理のmaximum_supported_sizeは5TiB (5、497、558、138、880バイト) です。ただし、5GiB を超えるオブジェクトをアップロードしようとすると、* S3 PUT Object size too large * アラートがトリガーされます。

ユーザメタデータ内の UTF-8 文字

要求のユーザ定義メタデータのキー名または値に（エスケープされていない）UTF-8 文字が含まれている場合、StorageGRID の動作は定義されていません。

ユーザ定義メタデータのキー名または値に含まれているエスケープされた UTF-8 文字は、StorageGRID で解析も解釈もされません。エスケープされた UTF-8 文字は ASCII 文字として扱われます。

- ユーザ定義メタデータにエスケープされた UTF-8 文字が含まれている場合、要求は正常に実行されます。
- StorageGRID からが返されない `x-amz-missing-meta` キーの名前または値の解釈後の値に印刷不能文字が含まれている場合は、ヘッダー。

サポートされる要求ヘッダー

次の要求ヘッダーがサポートされています。

- `Content-Type`
- `x-amz-copy-source`
- `x-amz-copy-source-if-match`
- `x-amz-copy-source-if-none-match`
- `x-amz-copy-source-if-unmodified-since`
- `x-amz-copy-source-if-modified-since`
- `x-amz-meta-`をクリックし、続けてユーザ定義のメタデータを含む名前と値のペアを作成します
- `x-amz-metadata-directive`: デフォルト値はです `COPY` をクリックすると、オブジェクトおよび関連するメタデータをコピーできます。

を指定できます `REPLACE` オブジェクトのコピー時に既存のメタデータを上書きする場合、またはオブジェクトメタデータを更新する場合。

- `x-amz-storage-class`
- `x-amz-tagging-directive`: デフォルト値はです `COPY` をクリックすると、オブジェクトとすべてのタグをコピーできます。

を指定できます `REPLACE` オブジェクトのコピー時に既存のタグを上書きする場合、またはタグを更新する場合。

- S3 オブジェクトロック要求のヘッダー：
 - `x-amz-object-lock-mode`
 - `x-amz-object-lock-retain-until-date`
 - `x-amz-object-lock-legal-hold`

これらのヘッダーを指定せずに要求を行うと、バケットのデフォルトの保持設定を使用してオブジェクトバージョンモードと `retain-until-date` が計算されます。を参照してください ["S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します。](#)

- SSE 要求ヘッダー：
 - `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-algorithm`
 - `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-key`

- x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-key-MD5
- x-amz-server-side-encryption
- x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5
- x-amz-server-side-encryption-customer-key
- x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm

を参照してください [\[サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー\]](#)

サポートされない要求ヘッダーです

次の要求ヘッダーはサポートされていません。

- Cache-Control
- Content-Disposition
- Content-Encoding
- Content-Language
- Expires
- x-amz-website-redirect-location

ストレージクラスのオプション

◦ x-amz-storage-class 要求ヘッダーがサポートされ、一致するILMルールで取り込み動作にDual commitまたはBalancedが指定されている場合にStorageGRIDで作成されるオブジェクトコピーの数に影響します。

- STANDARD

（デフォルト）ILMルールで Dual commit オプションが使用されている場合、または Balanced オプションによって中間コピーが作成される場合に、デュアルコミットの取り込み処理を指定します。

- REDUCED_REDUNDANCY

ILMルールで Dual commit オプションが使用されている場合、または Balanced オプションによって中間コピーが作成される場合に、シングルコミットの取り込み処理を指定します。



S3オブジェクトロックを有効にしてオブジェクトをバケットに取り込む場合は、を使用します REDUCED_REDUNDANCY オプションは無視されます。古い準拠バケットにオブジェクトを取り込む場合は、を参照してください REDUCED_REDUNDANCY オプションを指定するとエラーが返されます。StorageGRIDでは、常にデュアルコミットの取り込みが実行され、コンプライアンス要件が満たされます。

PUT Object - Copy で x-amz-copy-source を使用しています

ソースのバケットとキーの場合は、で指定します x-amz-copy-source ヘッダーはデスティネーションのバケットおよびキーとは異なり、ソースオブジェクトデータのコピーがデスティネーションに書き込まれます。

送信元と宛先が一致している場合は、および `x-amz-metadata-directive` ヘッダーはのように指定します。`'REPLACE'`では、要求で指定されたメタデータの値に基づいてオブジェクトのメタデータが更新されます。この場合、StorageGRID はオブジェクトを再取り込みしません。これには 2 つの重要な結果があります。

- PUT Object - Copyを使用して既存のオブジェクトを暗号化したり、既存のオブジェクトの暗号化を変更したりすることはできません。用意する場合は `x-amz-server-side-encryption` ヘッダーまたは `x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm` ヘッダー。StorageGRID は要求を拒否し、戻ります `XNotImplemented`。
- 一致する ILM ルールで指定されている取り込み動作のオプションが使用されません。更新によって発生したオブジェクト配置の変更は、通常のバックグラウンド ILM プロセスで ILM が再評価されるときに実施されます。

つまり、ILM ルールの取り込み動作に Strict オプションが使用されている場合、必要なオブジェクト配置を実行できない場合（新たに必要な場所が使用できない場合など）は処理されません。更新されたオブジェクトは、必要な配置を実行可能になるまで現在の配置が維持されます。

サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー

サーバ側の暗号化を使用する場合は、ソースオブジェクトが暗号化されているかどうか、およびターゲットオブジェクトを暗号化するかどうかによって、指定する要求ヘッダーが異なります。

- ソースオブジェクトがユーザ指定のキーを使用して暗号化されている場合（SSE-C）は、オブジェクトを復号化してコピーできるように、PUT Object - Copy 要求に次の 3 つのヘッダーを含める必要があります。
 - `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
 - `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-key`: ソースオブジェクトの作成時に指定した暗号化キーを指定します
 - `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-key-MD5`: ソースオブジェクトの作成時に指定した MD5 ダイジェストを指定します。
- ユーザが指定および管理する一意のキーでターゲットオブジェクト（コピー）を暗号化する場合は、次の 3 つのヘッダーを含めます。
 - `x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
 - `x-amz-server-side-encryption-customer-key`: ターゲットオブジェクトの新しい暗号化キーを指定します
 - `x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5`: 新しい暗号化キーの MD5 ダイジェストを指定します。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。ユーザ指定のキーを使用してオブジェクトデータを保護する前に、の考慮事項を確認してください "サーバ側の暗号化を使用する"。

- StorageGRID で管理される一意のキーでターゲットオブジェクト（コピー）を暗号化する（SSE）には、PUT Object - Copy 要求に次のヘッダーを含めます。
 - `x-amz-server-side-encryption`



。server-side-encryption オブジェクトの値を更新できません。代わりに、新しいを使用してコピーを作成します server-side-encryption を使用した値 x-amz-metadata-directive: REPLACE。

バージョン管理

ソースバケットがバージョン管理に対応している場合は、を使用できます x-amz-copy-source オブジェクトの最新バージョンをコピーするヘッダー。オブジェクトの特定のバージョンをコピーするには、を使用してコピーするバージョンを明示的に指定する必要があります versionId サブリソース: デスティネーションバケットがバージョン管理に対応している場合は、で生成されたバージョンが返されます x-amz-version-id 応答ヘッダー。ターゲットバケットのバージョン管理が一時停止中の場合は、を実行します x-amz-version-id 「null」 値を返します。

関連情報

["ILM を使用してオブジェクトを管理する"](#)

["監査ログで追跡される S3 処理"](#)

["PUT Object の場合"](#)

SelectObjectContent の順に選択します

S3 SelectObjectContent 要求を使用すると、シンプルな SQL ステートメントに基づいて S3 オブジェクトのコンテンツをフィルタリングできます。

詳細については、を参照してください ["SelectObjectContent に関する AWS ドキュメント"](#)。

作業を開始する前に

- ・テナントアカウントには S3 Select 権限が割り当てられます。
- ・これで完了です s3:GetObject 照会するオブジェクトの権限。
- ・照会するオブジェクトは、次のいずれかの形式である必要があります。
 - * CSV *。そのまま使用することも、GZIPやbzip2のアーカイブに圧縮して使用することもできます。
 - 寄木細工。寄木細工オブジェクトの追加要件：
 - S3 Selectでは、GZIPまたはSnappyを使用したカラムナ圧縮のみがサポートされます。S3 Select では、寄木細工オブジェクトのオブジェクト全体の圧縮はサポートされません。
 - S3 Selectは寄木細工の出力をサポートしていません。出力形式はCSVまたはJSONで指定する必要があります。
 - 圧縮されていない行グループの最大サイズは512MBです。
 - オブジェクトのスキーマで指定されているデータ型を使用する必要があります。
 - interval、json、list、time、またはUUID論理型は使用できません。
- ・SQL 式の最大長は 256KB です。
- ・入力または結果のすべてのレコードの最大長は 1MiB です。



ScanRangeの使用はサポートされていません。

CSV要求の構文例

```
POST /{Key+}?select&select-type=2 HTTP/1.1
Host: Bucket.s3.abc-company.com
x-amz-expected-bucket-owner: ExpectedBucketOwner
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<SelectObjectContentRequest xmlns="http://s3.amazonaws.com/doc/2006-03-01/">
  <Expression>string</Expression>
  <ExpressionType>string</ExpressionType>
  <RequestProgress>
    <Enabled>boolean</Enabled>
  </RequestProgress>
  <InputSerialization>
    <CompressionType>GZIP</CompressionType>
    <CSV>
      <AllowQuotedRecordDelimiter>boolean</AllowQuotedRecordDelimiter>
      <Comments>#</Comments>
      <FieldDelimiter>\t</FieldDelimiter>
      <FileHeaderInfo>USE</FileHeaderInfo>
      <QuoteCharacter>'"</QuoteCharacter>
      <QuoteEscapeCharacter>\\</QuoteEscapeCharacter>
      <RecordDelimiter>\n</RecordDelimiter>
    </CSV>
  </InputSerialization>
  <OutputSerialization>
    <CSV>
      <FieldDelimiter>string</FieldDelimiter>
      <QuoteCharacter>string</QuoteCharacter>
      <QuoteEscapeCharacter>string</QuoteEscapeCharacter>
      <QuoteFields>string</QuoteFields>
      <RecordDelimiter>string</RecordDelimiter>
    </CSV>
  </OutputSerialization>
  <ScanRange>
    <End>long</End>
    <Start>long</Start>
  </ScanRange>
</SelectObjectContentRequest>
```

寄木リクエスト構文の例

```

POST /{Key+}?select&select-type=2 HTTP/1.1
Host: Bucket.s3.abc-company.com
x-amz-expected-bucket-owner: ExpectedBucketOwner
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<SelectObjectContentRequest xmlns="http://s3.amazonaws.com/doc/2006-03-01/">
  <Expression>string</Expression>
  <ExpressionType>string</ExpressionType>
  <RequestProgress>
    <Enabled>boolean</Enabled>
  </RequestProgress>
  <InputSerialization>
    <CompressionType>GZIP</CompressionType>
    <PARQUET>
    </PARQUET>
  </InputSerialization>
  <OutputSerialization>
    <CSV>
      <FieldDelimiter>string</FieldDelimiter>
      <QuoteCharacter>string</QuoteCharacter>
      <QuoteEscapeCharacter>string</QuoteEscapeCharacter>
      <QuoteFields>string</QuoteFields>
      <RecordDelimiter>string</RecordDelimiter>
    </CSV>
  </OutputSerialization>
  <ScanRange>
    <End>long</End>
    <Start>long</Start>
  </ScanRange>
</SelectObjectContentRequest>

```

SQL クエリの例

このクエリは、州名、2010年人口、2015年推定人口、米国的人口調査データからの変化率を取得します。状態でないファイル内のレコードは無視されます。

```

SELECT STNAME, CENSUS2010POP, POPESTIMATE2015, CAST((POPESTIMATE2015 -
CENSUS2010POP) AS DECIMAL) / CENSUS2010POP * 100.0 FROM S3Object WHERE
NAME = STNAME

```

照会するファイルの最初の数行 `SUB-EST2020_ALL.csv` 次のようになります。

```
SUMLEV,STATE,COUNTY,PLACE,COUSUB,CONCIT,PRIMGEO_FLAG,FUNCSTAT,NAME,STNAME,  
CENSUS2010POP,  
ESTIMATESBASE2010,POPESTIMATE2010,POPESTIMATE2011,POPESTIMATE2012,POPESTIM  
ATE2013,POPESTIMATE2014,  
POPESTIMATE2015,POPESTIMATE2016,POPESTIMATE2017,POPESTIMATE2018,POPESTIMAT  
E2019,POPESTIMATE042020,  
POPESTIMATE2020  
040,01,000,00000,00000,00000,0,A,Alabama,Alabama,4779736,4780118,4785514,4  
799642,4816632,4831586,  
4843737,4854803,4866824,4877989,4891628,4907965,4920706,4921532  
162,01,000,00124,00000,00000,0,A,Abbeville  
city,Alabama,2688,2705,2699,2694,2645,2629,2610,2602,  
2587,2578,2565,2555,2555,2553  
162,01,000,00460,00000,00000,0,A,Adamsville  
city,Alabama,4522,4487,4481,4474,4453,4430,4399,4371,  
4335,4304,4285,4254,4224,4211  
162,01,000,00484,00000,00000,0,A,Addison  
town,Alabama,758,754,751,750,745,744,742,734,734,728,  
725,723,719,717
```

AWS-CLIの使用例（CSV）

```
aws s3api select-object-content --endpoint-url https://10.224.7.44:10443  
--no-verify-ssl --bucket 619c0755-9e38-42e0-a614-05064f74126d --key SUB-  
EST2020_ALL.csv --expression-type SQL --input-serialization '{"CSV":  
{"FileHeaderInfo": "USE", "Comments": "#", "QuoteEscapeCharacter": "\\"",  
"RecordDelimiter": "\n", "FieldDelimiter": ",", "QuoteCharacter": "\\"",  
"AllowQuotedRecordDelimiter": false}, "CompressionType": "NONE"}' --output  
-serialization '{"CSV": {"QuoteFields": "ASNEEDED",  
"QuoteEscapeCharacter": "#", "RecordDelimiter": "\n", "FieldDelimiter":  
",,", "QuoteCharacter": "\\"}}' --expression "SELECT STNAME, CENSUS2010POP,  
POPESTIMATE2015, CAST((POPESTIMATE2015 - CENSUS2010POP) AS DECIMAL) /  
CENSUS2010POP * 100.0 FROM S3Object WHERE NAME = STNAME" changes.csv
```

出力ファイルの最初の数行 `changes.csv` 次のようになります。

```
Alabama,4779736,4854803,1.5705260708959658022953568983726297854  
Alaska,710231,738430,3.9703983633493891424057806544631253775  
Arizona,6392017,6832810,6.8959922978928247531256565807005832431  
Arkansas,2915918,2979732,2.1884703204959810255295244928012378949  
California,37253956,38904296,4.4299724839960620557988526104449148971  
Colorado,5029196,5454328,8.4532796097030221132761578590295546246
```

AWS-CLIの使用例（寄木細工）

```
aws s3api select-object-content --endpoint-url https://10.224.7.44:10443  
--bucket 619c0755-9e38-42e0-a614-05064f74126d --key SUB-  
EST2020_ALL.parquet --expression "SELECT STNAME, CENSUS2010POP,  
POPESTIMATE2015, CAST((POPESTIMATE2015 - CENSUS2010POP) AS DECIMAL) /  
CENSUS2010POP * 100.0 FROM S3Object WHERE NAME = STNAME" --expression-type  
'SQL' --input-serialization '{"Parquet":{}}' --output-serialization  
'{"CSV": {}}' changes.csv
```

出力ファイルの最初のいくつかの行は、.csvを変更します。次のようにになります。

```
Alabama,4779736,4854803,1.5705260708959658022953568983726297854  
Alaska,710231,738430,3.9703983633493891424057806544631253775  
Arizona,6392017,6832810,6.8959922978928247531256565807005832431  
Arkansas,2915918,2979732,2.1884703204959810255295244928012378949  
California,37253956,38904296,4.4299724839960620557988526104449148971  
Colorado,5029196,5454328,8.4532796097030221132761578590295546246
```

マルチパートアップロードの処理

このセクションでは、StorageGRID でのマルチパートアップロードの処理のサポートについて説明します。

マルチパートアップロードのすべての処理に、次の条件と注意事項が適用されます。

- 1つのバケットに対して同時に実行するマルチパートアップロードが 1,000 件を超えないようにしてください。1,000 件を超えると、そのバケットに対する List Multipart Uploads のクエリで完全な結果が返されないことがあります。
- StorageGRID は、マルチパートに AWS のサイズ制限を適用します。S3 クライアントは次のガイドラインに従う必要があります。
 - マルチパートアップロードの各パートのサイズは 5MiB (5,242,880 バイト) と 5GiB (5,368,709,120 バイト) の間にすること必要があります。
 - 最後の部分は 5MiB (5,242,880 バイト) より小さくできます。
 - 一般に、パートサイズはできるだけ大きくする必要があります。たとえば、100GiB オブジェクトの場合、5GB のパートサイズを使用します。各パートは固有のオブジェクトとみなされるため、大きなパートサイズを使用すると StorageGRID メタデータのオーバーヘッドが削減されます。
 - 5GB 未満のオブジェクトでは、マルチパートではないアップロードの使用を検討してください。
- ILM ルールの取り込み動作が Balanced または Strict の場合は、マルチパートオブジェクトの各パートについて、ILM ルールの取り込み動作が Balanced または Strict の場合はマルチパートアップロードの完了時にオブジェクト全体について ILM が評価されます。これがオブジェクトとパートの配置にどのように影響するかに注意する必要があります。
 - S3 マルチパートアップロードの進行中に ILM が変更されると、マルチパートアップロードが完了し

た時点でオブジェクトの一部のパートが現在の ILM 要件を満たしていないことがあります。正しく配置されていないパートは ILM ルールによる再評価の対象としてキューに登録され、あとで正しい場所に移動されます。

- パートに対して ILM を評価する際、StorageGRID はオブジェクトのサイズではなくパートのサイズでフィルタリングします。つまり、オブジェクト全体の ILM 要件を満たしていない場所にオブジェクトの一部を格納できます。たとえば、10GB 以上のオブジェクトをすべて DC1 に格納し、それより小さいオブジェクトをすべて DC2 に格納するルールの場合、10 パートからなるマルチパートアップロードの 1GB の各パートは取り込み時に DC2 に格納されます。オブジェクト全体に対して ILM が評価されると、オブジェクトのすべてのパートが DC1 に移動されます。
- マルチパートアップロードでは、すべての処理で StorageGRID の整合性制御がサポートされます。
- マルチパートアップロードでは、必要に応じてサーバ側の暗号化を使用できます。SSE (StorageGRID で管理されるキーによるサーバ側の暗号化) を使用するには、を指定します `x-amz-server-side-encryption` `Initiate Multipart Upload` 要求のみの要求ヘッダー。SSE-C (ユーザ指定のキーによるサーバ側の暗号化) を使用する場合は、`Initiate Multipart Upload` 要求と後続の各 `Upload Part` 要求に、同じ 3 つの暗号化キー要求ヘッダーを指定します。

操作	実装
マルチパートアップロードをリストします	を参照してください "マルチパートアップロードをリストします"
マルチパートアップロードを開始します	を参照してください "マルチパートアップロードを開始します"
パートをアップロードします	を参照してください "パートをアップロードします"
パートのアップロード - コピー	を参照してください "パートのアップロード - コピー"
Complete Multipart Upload の実行	を参照してください "Complete Multipart Upload の実行"
マルチパートアップロードを中止します	Amazon S3 REST API のすべての動作が実装されています。予告なく変更される場合があります。
パートをリストします	Amazon S3 REST API のすべての動作が実装されています。予告なく変更される場合があります。

関連情報

- ["整合性制御"](#)
- ["サーバ側の暗号化を使用します"](#)

マルチパートアップロードをリストします

`List Multipart Uploads` 処理では、バケットの進行中のマルチパートアップロードがリストされます。

次の要求パラメータがサポートされています。

- encoding-type
- key-marker
- max-uploads
- prefix
- upload-id-marker
- Host
- Date
- Authorization

バージョン管理

マルチパートアップロードは、アップロードの開始、アップロードのリストの表示、パートのアップロード、アップロードしたパートのアセンブル、およびアップロードの完了の個別の処理に分けられます。Complete Multipart Upload 処理が実行されると、オブジェクトが作成される時点（およびバージョン管理されている場合）になります。

マルチパートアップロードを開始します

Initiate Multipart Upload (CreateMultipartUpload) 処理を実行すると、オブジェクトのマルチパートアップロードが開始され、アップロードIDが返されます。

。 x-amz-storage-class 要求ヘッダーがサポートされています。に送信された値 x-amz-storage-class StorageGRID が取り込み中にオブジェクトデータを保護する方法に影響し、StorageGRID システム (ILMで決定) に格納されるオブジェクトの永続的コピーの数には影響しません。

取り込まれたオブジェクトに一致するILMルールの取り込み動作がStrictオプションに指定されている場合、はを使用します x-amz-storage-class ヘッダーに影響はありません。

には次の値を使用できます x-amz-storage-class :

- STANDARD (デフォルト)
 - * Dual commit * : ILM ルールの取り込み動作が Dual commit オプションに指定されている場合は、オブジェクトの取り込み直後にオブジェクトの 2 つ目のコピーが作成されて別のストレージノードに配置されます（デュアルコミット）。ILMが評価されると、StorageGRID はこれらの初期中間コピーがルールの配置手順を満たしているかどうかを判断します。作成されていない場合は、新しいオブジェクトコピーを別の場所に作成し、最初の中間コピーを削除しなければならないことがあります。
 - * Balanced * : ILMルールでBalancedオプションが指定されていて、ルールで指定されたすべてのコピーをStorageGRID がすぐに作成できない場合、StorageGRID は2つの中間コピーを別々のストレージノードに作成します。

StorageGRID がILMルールに指定されたすべてのオブジェクトコピーをただちに作成できる場合（同期配置）は、を参照してください x-amz-storage-class ヘッダーに影響はありません。
- REDUCED_REDUNDANCY
 - * Dual commit * : ILM ルールの取り込み動作が Dual commit オプションに指定されている場合は、オブジェクトの取り込み時に StorageGRID が中間コピーを 1 つ作成します（シングルコミット）。

- * Balanced * : ILMルールでBalancedオプションが指定されている場合、StorageGRIDは、ルールで指定されたすべてのコピーをただちに作成できない場合にのみ中間コピーを1つ作成します。StorageGRIDで同期配置を実行できる場合、このヘッダーは効果がありません。• REDUCED_REDUNDANCYオプションは、オブジェクトに一致するILMルールで単一のレプリケートコピーが作成される場合に最適です。この場合は、を使用します REDUCED_REDUNDANCY取り込み処理のたびに追加のオブジェクトコピーを不要に作成および削除する必要がなくなります。

を使用する REDUCED_REDUNDANCY それ以外の場合は、このオプションは推奨されません。REDUCED_REDUNDANCY 取り込み中にオブジェクトデータが失われるリスクが高まります。たとえば、ILM評価の前にコピーが1つだけ格納されていたストレージノードに障害が発生すると、データが失われる可能性があります。

 レプリケートコピーを一定期間に1つだけ作成すると、データが永続的に失われるリスクがあります。オブジェクトのレプリケートコピーが1つしかない場合、ストレージノードに障害が発生したり、重大なエラーが発生すると、そのオブジェクトは失われます。また、アップグレードなどのメンテナンス作業中は、オブジェクトへのアクセスが一時的に失われます。

を指定します REDUCED_REDUNDANCY オブジェクトの初回取り込み時に作成されるコピー数のみに影響します。オブジェクトがアクティブな ILM ポリシーで評価される際に作成されるオブジェクトのコピー数には影響せず、StorageGRIDシステムでデータが格納されるときの冗長性レベルが低下することもありません。

 S3オブジェクトロックを有効にしてオブジェクトをバケットに取り込む場合は、を使用します REDUCED_REDUNDANCY オプションは無視されます。古い準拠バケットにオブジェクトを取り込む場合は、を参照してください REDUCED_REDUNDANCY オプションを指定するとエラーが返されます。StorageGRIDでは、常にデュアルコミットの取り込みが実行され、コンプライアンス要件が満たされます。

次の要求ヘッダーがサポートされています。

- Content-Type
- `x-amz-meta-`をクリックし、続けてユーザ定義のメタデータを含む名前と値のペアを作成します

ユーザ定義メタデータの名前と値のペアを指定する場合、一般的な形式は次のとおりです。

```
x-amz-meta-name: `value`
```

ILMルールの参照時間に*[ユーザ定義の作成時間]*オプションを使用する場合は、を使用する必要があります creation-time を、オブジェクトの作成時に記録されたメタデータの名前として指定します。例：

```
x-amz-meta-creation-time: 1443399726
```

の値 creation-time は、1970年1月1日からの秒数として評価されます。



追加中です creation-time レガシー準拠が有効になっているバケットにオブジェクトを追加する場合、ユーザ定義メタデータは許可されません。エラーが返されます。

- S3 オブジェクトロック要求のヘッダー：

- x-amz-object-lock-mode
- x-amz-object-lock-retain-until-date
- x-amz-object-lock-legal-hold

これらのヘッダーがない状態で要求を送信した場合、バケットのデフォルトの保持設定を使用して、オブジェクトバージョンの retain-date が計算されます。

["S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"](#)

- SSE 要求ヘッダー：

- x-amz-server-side-encryption
- x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5
- x-amz-server-side-encryption-customer-key
- x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm

[\[サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー\]](#)



StorageGRID でのUTF-8文字の処理方法については、PUT Objectのドキュメントを参照してください。

サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー

マルチパートオブジェクトをサーバ側の暗号化で暗号化するには、次の要求ヘッダーを使用します。SSE オプションと SSE-C オプションを同時に指定することはできません。

- * SSE * : StorageGRID で管理される一意のキーでオブジェクトを暗号化する場合は、Initiate Multipart Upload 要求で次のヘッダーを使用します。Upload Partリクエストでは、このヘッダーを指定しないでください。
 - x-amz-server-side-encryption
- * SSE-C * : ユーザが指定および管理する一意のキーでオブジェクトを暗号化する場合は、Initiate Multipart Upload 要求（および後続の各 Upload Part 要求）で、次の 3 つのヘッダーをすべて使用します。
 - x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm:指定します AES256。
 - x-amz-server-side-encryption-customer-key:新しいオブジェクトの暗号化キーを指定します。
 - x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5:新しいオブジェクトの暗号化キーのMD5 ダイジェストを指定します。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。ユーザ指定のキーを使用してオブジェクトデータを保護する前に、の考慮事項を確認してください ["サーバ側の暗号化を使用する"](#)。

サポートされない要求ヘッダーです

次の要求ヘッダーはサポートされていません `xNotImplemented`

- `x-amz-website-redirect-location`

バージョン管理

マルチパートアップロードは、アップロードの開始、アップロードのリストの表示、パートのアップロード、アップロードしたパートのアセンブル、およびアップロードの完了の個別の処理に分けられます。Complete Multipart Upload 処理が実行されると、オブジェクトが作成されます（該当する場合はバージョン管理されます）。

関連情報

["ILM を使用してオブジェクトを管理する"](#)

["PUT Object の場合"](#)

パートをアップロードします

Upload Part 処理では、オブジェクトのマルチパートアップロード内のパートがアップロードされます。

サポートされる要求ヘッダー

次の要求ヘッダーがサポートされています。

- `Content-Length`
- `Content-MD5`

サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー

Initiate Multipart Upload 要求に SSE-C 暗号化を指定した場合は、各 Upload Part 要求に次の要求ヘッダーも含める必要があります。

- `x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
- `x-amz-server-side-encryption-customer-key` : Initiate Multipart Upload 要求で指定した暗号化キーを指定します。
- `x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5` : Initiate Multipart Upload 要求で指定した MD5 ダイジェストを指定します。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。お客様提供の鍵を使用してオブジェクト・データを保護する前に「サーバ側の暗号化を使用の考慮事項を確認してください」

バージョン管理

マルチパートアップロードは、アップロードの開始、アップロードのリストの表示、パートのアップロード、アップロードしたパートのアセンブル、およびアップロードの完了の個別の処理に分けられます。Complete

Multipart Upload 処理が実行されると、オブジェクトが作成されます（該当する場合はバージョン管理されます）。

関連情報

["サーバ側の暗号化を使用します"](#)

パートのアップロード - コピー

Upload Part - Copy 処理は、データソースとしての既存のオブジェクトからデータをコピーすることで、オブジェクトのパートをアップロードします。

Upload Part - Copy 処理には、すべての Amazon S3 REST API の動作が実装されています。予告なく変更される場合があります。

この要求は、で指定されたオブジェクトデータの読み取りと書き込みを行います `x-amz-copy-source-range` StorageGRID システム内で実行する。

次の要求ヘッダーがサポートされています。

- `x-amz-copy-source-if-match`
- `x-amz-copy-source-if-none-match`
- `x-amz-copy-source-if-unmodified-since`
- `x-amz-copy-source-if-modified-since`

サーバ側の暗号化を行うための要求ヘッダー

Initiate Multipart Upload 要求に SSE-C 暗号化を指定した場合は、各 Upload Part - Copy 要求に次の要求ヘッダーも含める必要があります。

- `x-amz-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
- `x-amz-server-side-encryption-customer-key` : Initiate Multipart Upload 要求で指定した暗号化キーを指定します。
- `x-amz-server-side-encryption-customer-key-MD5` : Initiate Multipart Upload 要求で指定した MD5 ダイジェストを指定します。

ソースオブジェクトがユーザ指定のキーを使用して暗号化されている場合（SSE-C）は、オブジェクトを復号化してコピーできるように、Upload Part - Copy 要求に次の 3 つのヘッダーを含める必要があります。

- `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-algorithm`: 指定します AES256。
- `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-key`: ソースオブジェクトの作成時に指定した暗号化キーを指定します
- `x-amz-copy-source-server-side-encryption-customer-key-MD5`: ソースオブジェクトの作成時に指定した MD5 ダイジェストを指定します。



指定した暗号化キーが格納されることはありません。暗号化キーを紛失すると、対応するオブジェクトが失われます。お客様提供の鍵を使用してオブジェクト・データを保護する前に「サーバ側の暗号化を使用の考慮事項を確認してください」

バージョン管理

マルチパートアップロードは、アップロードの開始、アップロードのリストの表示、パートのアップロード、アップロードしたパートのアセンブル、およびアップロードの完了の個別の処理に分けられます。Complete Multipart Upload 処理が実行されると、オブジェクトが作成されます（該当する場合はバージョン管理されます）。

Complete Multipart Upload の実行

Complete Multipart Upload 処理では、以前にアップロードされたパートをアセンブルすることで、オブジェクトのマルチパートアップロードを完了します。

競合を解決します

同じキーに書き込む 2 つのクライアントなど、競合するクライアント要求は、「latest-wins」ベースで解決されます。「latest-wins」評価は、S3 クライアントが処理を開始するタイミングではなく、StorageGRID システムが特定の要求を完了したタイミングで行われます。

要求ヘッダー

。 `x-amz-storage-class` 要求ヘッダーがサポートされ、一致するILMルールで取り込み動作にDual commitまたはBalancedが指定されている場合にStorageGRID で作成されるオブジェクトコピーの数に影響します。

- STANDARD

（デフォルト） ILM ルールで Dual commit オプションが使用されている場合、または Balanced オプションによって中間コピーが作成される場合に、デュアルコミットの取り込み処理を指定します。

- REDUCED_REDUNDANCY

ILM ルールで Dual commit オプションが使用されている場合、または Balanced オプションによって中間コピーが作成される場合に、シングルコミットの取り込み処理を指定します。



S3オブジェクトロックを有効にしてオブジェクトをバケットに取り込む場合は、を使用します REDUCED_REDUNDANCY オプションは無視されます。古い準拠バケットにオブジェクトを取り込む場合は、を参照してください REDUCED_REDUNDANCY オプションを指定するとエラーが返されます。StorageGRID では、常にデュアルコミットの取り込みが実行され、コンプライアンス要件が満たされます。



マルチパートアップロードが 15 日以内に完了しないと、非アクティブな処理としてマークされ、関連するすべてのデータがシステムから削除されます。



。 ETag 返される値はデータのMD5サムではなく、のAmazon S3 APIの実装に従います ETag マルチパートオブジェクトの値。

バージョン管理

マルチパートアップロードは、この処理で完了します。バケットでバージョン管理が有効になっている場合は、マルチパートアップロードの完了後にオブジェクトのバージョンが作成されます。

バケットでバージョン管理が有効になっている場合は、一意です `versionId` は、格納されているオブジェクトのバージョンに対して自動的に生成されます。これ `versionId` は、を使用して応答としても返されます `x-amz-version-id` 応答ヘッダー。

バージョン管理が一時停止中の場合は、オブジェクトバージョンはnullで格納されます `versionId` また、null バージョンがすでに存在する場合は上書きされます。



バケットでバージョン管理が有効になっているときは、同じオブジェクトキーで同時に複数のマルチパートアップロードが実行されている場合でも、マルチパートアップロードが完了するたびに常に新しいバージョンが作成されます。バケットでバージョン管理が有効になっていないときは、マルチパートアップロードの開始後に、同じオブジェクトキーで別のマルチパートアップロードが開始されて先に完了することがあります。バージョン管理が有効になっていないバケットでは、最後に完了したマルチパートアップロードが優先されます。

レプリケーション、通知、またはメタデータ通知に失敗しました

マルチパートアップロードが行われるバケットでプラットフォームサービスが設定されている場合、関連するレプリケーション操作や通知操作が失敗してもマルチパートアップロードは正常に実行されます。

この状況が発生すると、Total Events (SMTT) のアラームがグリッドマネージャで生成されます。Last Event メッセージに、通知が失敗した最後のオブジェクトについて、「Failed to publish notifications for bucket-name object key」と表示されます。（このメッセージを表示するには、* nodes * > * _Storage Node_* > * Events * を選択します。表の一番上にLast Eventが表示されます）。イベントメッセージは、にも表示されます /var/local/log/bycast-err.log。

テナントでは、オブジェクトのメタデータまたはタグを更新することで、失敗したレプリケーションまたは通知をトリガーできます。テナントでは、既存の値を再送信し、不要な変更を回避できます。

関連情報

["ILM を使用してオブジェクトを管理する"](#)

エラー応答

StorageGRID システムでは、該当する S3 REST API の標準のエラー応答をすべてサポートしています。また、StorageGRID の実装では、カスタム応答もいくつか追加されています。

サポートされている S3 API のエラーコード

名前	HTTP ステータス
アクセスが拒否されました	403 禁止
BadDigest の略	400 不正な要求です
BucketAlreadyExists のようになりました	409 競合
BucketNotEmpty のように入力します	409 競合

名前	HTTP ステータス
IncompleteBody	400 不正な要求です
内部エラー	500 Internal Server Error (内部サーバエラー)
InvalidAccessKeyId	403 禁止
アンヴァリッドドキュメント	400 不正な要求です
InvalidBucketName の略	400 不正な要求です
InvalidBucketState の場合	409 競合
InvalidDigest の略	400 不正な要求です
InvalidEncryptionAlgorithmError	400 不正な要求です
InvalidPart	400 不正な要求です
InvalidPartOrder	400 不正な要求です
InvalidRange : 無効な範囲	416 リクエストされた範囲が適合しません
InvalidRequest	400 不正な要求です
InvalidStorageClass	400 不正な要求です
InvalidTag	400 不正な要求です
InvalidURI	400 不正な要求です
KeyTooLong の 2 つのグループがあります	400 不正な要求です
MalformedXML の場合	400 不正な要求です
MetadataTooLarge	400 不正な要求です
MethodNotAllowed のように入力します	405 メソッドは許可されていません
MissingContentLength (MissingContentLength)	411 長さが必要です
MissingRequestBodyError	400 不正な要求です

名前	HTTP ステータス
MissingSecurityHeader	400 不正な要求です
NoSuchBucket	404 が見つかりません
NoSuchKey	404 が見つかりません
NoSuchUpload	404 が見つかりません
実装なし	501 は実装されていません
NoSuchBucketPolicy のようになります	404 が見つかりません
ObjectLockConfigurationNotFoundError	404 が見つかりません
PreconditionalFailed	412 事前条件が失敗しました
RequestTimeTooSkewed	403 禁止
サービスを利用できません	503 Service Unavailable (503 サービスが利用でき
SignatureDoesNotMatch のように指定します	403 禁止
TooManyBuckets	400 不正な要求です
UserKeyMustBeSpecified	400 不正な要求です

StorageGRID カスタムのエラーコード

名前	説明	HTTP ステータス
XBucketLifecycleNotAllowed のようになりました	バケットライフサイクル設定は従来の準拠バケットには適用されません	400 不正な要求です
XBucketPolicyParseException	受信したバケットポリシー JSON を解析できませんでした。	400 不正な要求です
XCompliConflict	準拠設定が古いため、処理が拒否されました。	403 禁止
XCompliReducedRedundancyForbidden	レガシー準拠バケットでは冗長性の低下は許可されません	400 不正な要求です

名前	説明	HTTP ステータス
XMaxBucketPolicyLengthExceeded (XMaxBucketLengthExceeded)	ポリシーが許容される最大バケットポリシー長を超えています。	400 不正な要求です
XMissingInternalRequestHeader	内部要求のヘッダーがありません。	400 不正な要求です
XNoSuchBucketCompliance です	指定したバケットで従来の準拠が有効になっていません。	404 が見つかりません
XNotAcceptable	要求に含まれている Accept ヘッダーの 1 つ以上を満たすことができませんでした。	406 は許容されません
XNotImplemented	指定した要求の処理には、実装されていない機能が含まれます。	501 は実装されていません

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。